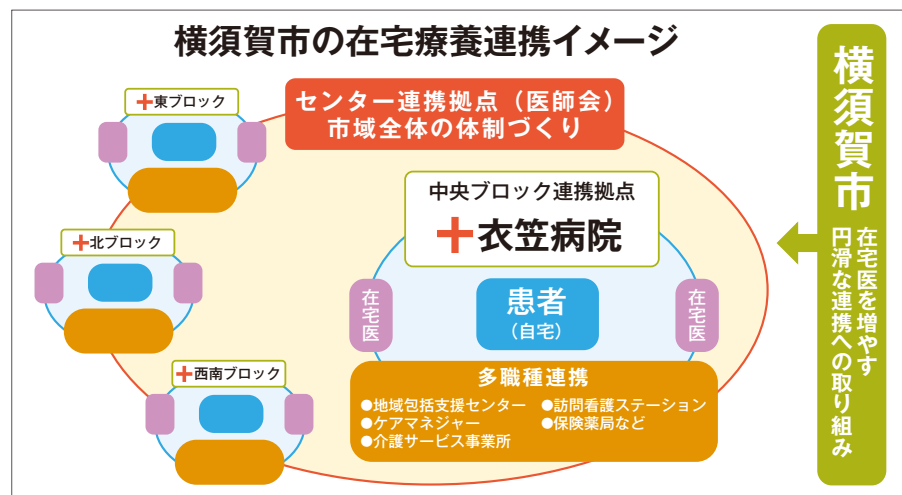


地域連携センターには在宅医療や介護施設に関する医師からの診療依頼が多くなっていると、柳澤氏は言う。

「症状の重い患者さんをすぐに精査してほしい、あるいは入院させてほしいという依頼が多いですね。バイタルが落ちたり、肺炎の疑いがあるといった相談もあります」

これまでは、入院すると一つの病院で全治療を行うことが多かった。しかし地域の病院が連携すると、患者さんの状態に適した病棟を選択できる。「例えば、高度医療の必要な急性期患者には設備の整った医療機関にかかってもらい、当院で診る一般急性期患者は、急性期を脱したら自院内で回復期の病棟に転棟、または他の病院に転院する。他院からの急性期後の患者が、回復期系病棟を利用するという選択肢

介護業界の現在



柳澤 哲哉氏
(やなぎさわ・てつや)
社会福祉法人 衣笠病院
日本医療伝道会 衣笠病院
1947年、キリスト教精神に基づき設立。病床数251床、回復期リハビリテーション病棟やホスピス病棟もある。

在宅や施設で介護を受けている高齢者が急変した場合、検査機器や看護体制が整った病院に即座にアクセスできるかが、生死を分けることがある。高齢化率29%の横須賀市にある医療機関が、全国でも進んだ体制を立ち上げた。衣笠病院地域連携センター長の柳澤哲哉氏に話を聞いた。

「横須賀市のホームページから入手できる。https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3120/zaitaku/etiquette.html」

「医療と介護の連携が円滑になる工夫も、コミュニケーションを促すことも大切だ。顔を含められる機会を設け、コミュニケーションを促すことも大切だ。顔を含められる機会を設け、コミュニケーションを促すことも大切だ。」

「多職種が一堂に会して議論する場では、老老介護で介護者が入院する場合、被介護者その期間どうするかという、具体的なケースについても話し合われます」

「横須賀市は平成23年度から、在宅療養連携、つまり医療と介護の連携がスムーズになるような施策を進めています。当院も厚生労働省のモデル事業にも関わりました」

「その中から、医療者と介護者の連携をよくするために『よこすかエチケット集』を作成した。これがベストなのだ。」

「在宅復帰ができた場合、その生活を支える介護や医療サービスがしっかりとないとい、また病院に舞い戻るといいうケースもあり得る。そうしないためには、医療と介護の連携は不可欠になる。」

「横須賀市は平成23年度から、在宅療養連携、つまり医療と介護の連携がスムーズになるような施策を進めています。当院も厚生労働省のモデル事業にも関わりました」

ネピアアテンダー ケア通信 Vol.13

発行元: 王子ネピア株式会社
ケアサポート事業本部
東京都中央区銀座5-12-8
王子ホールディングス 1号館
編集・制作: 株式会社ジェイ・キャスト
発行人: 取締役 ケアサポート事業部長 山下千晶
発行日: 平成27年12月15日



注目のトピックス

ロボット技術+歩行者 介護保険レンタル対象に
厚生労働省の「介護保険福祉用具・住宅改修評価検討会」は、来年4月からロボット技術を搭載した歩行者の安全性を評価し、介護保険レンタルの適用とすることで合意した。
2015/11/13 シルバー新報

介護報酬改定で、小規模デイサービス経営厳しく
介護報酬改定を受け、小規模デイサービスの経営環境が厳しさを増している。九州・山口で4～10月、廃止・休止した事業所は230件、前年同期比で1.6倍に上った。国は加算制度を充実させたが、小規模事業者が加算の条件を満たせず、経営難に陥るケースが目立つ。
2015/11/20 読売新聞

脳のアンチエイジング

出題=公共財団法人 日本数学検定協会

下の隣り合う数を足して、上の□に答えを入れていきます。

問題
□に入る数字を推理しながら、ピラミッド計算にチャレンジしてください。
□にあてはまる数を書きましょう。
いちばん下の段(だん)には、1、2、3、4、5が1つつつ入ります。

回答

セントラルスポーツ

健康運動指導士・介護予防主任運動指導員の坂倉有美さん

「10歳から一生の健康づくりに貢献する」という企業理念のもとに、全国200カ所以上のスポーツクラブを運営するほか、20年前から、介護予防運動に取り組んでいます。介護予防事業部主任の坂倉有美さんは、この10年間、介護予防運動のプログラム開発・普及や指導に注力してきたベテランスタッフです。

「初めは主に『健康イステイア』などの高齢者施設向けプログラムの指導をしました。施設によって参加者の身体状況が違ってくるので、コミュニケーションをとりながら柔軟に対応しています」

指導員の育成を担当
2004年、セントラルスポーツに転職が訪れました。東京都老人総合研究所(現・東京都健康長寿医療センター)が介護予防運動を全国に展開する際のパートナー企業となったのです。坂倉さん

「私たちは、都老研のカリキュラムをもとに介護予防運動指導員の育成を担うことになりました。後に自治体、地域包括支援センターなどに介護予防プログラムを提供する「地域支援事業」を受託し、育てた指導員の活躍の場が広がりました。指導員のスキルアップ教育も大切です。現場のニーズは測定だけ、認知症予防を兼ねる、運動器具を使うなどいろいろなので、プログラムは多彩になっています」

介護予防プログラムは、週1回3カ月コース。参加者には写真入りのテキストを配布し、自宅での運動を記録する日誌を

「軽度の認知症の方もいらっしゃるんですが、90分運動した後は、スタッフもびっくりするくらいクリアになります」

坂倉さんが行くところ、体操の先生がわざわざ来てくれた」と喜んでくれるそうです。今後も「施設の中で過ごしている方たちが週1回、体を動かしてリフレッシュできる新しいプログラムを考えたい」と意欲的です。

王子ネピアでは、「健康イステイア」を顧客の施設へご提供しています。

こんにちは、ネピアです。職場のお話、聞かせてください。

喜ばれるプログラムを届けたい

◎セントラルスポーツ 介護予防事業部(東京都中央区)
健康運動指導士・介護予防主任運動指導員 坂倉有美さん

持参すると、指導員が励まし言葉やアドバイスを書き込みます。「軽度の認知症の方もいらっしゃるんですが、90分運動した後は、スタッフもびっくりするくらいクリアになります」

坂倉さんが行くところ、体操の先生がわざわざ来てくれた」と喜んでくれるそうです。今後も「施設の中で過ごしている方たちが週1回、体を動かしてリフレッシュできる新しいプログラムを考えたい」と意欲的です。

王子ネピアでは、「健康イステイア」を顧客の施設へご提供しています。

医療と介護をつないで地域貢献



東京都板橋区の閑静な住宅街に、医療法人財団朝望会が医療と福祉のトータルケアネットワークを築いています。望月龍二理事長を、王子ネピア社長の清水紀晴が訪ねました。

清水 望月理事長は、朝望会の拠点病院である常盤台外科病院で脳神経外科医として診療に当たられてつ、今年8月まで同院の病院長も兼務されておりました。8月1日にはリハビリテーションエーデルワイス病院がオープンしました。おめでとうございます。

す。新病院は、療養病棟と回復期リハビリテーション病棟で構成され、地域に根ざした医療と福祉を展開することで、介護と医療を融合した高度で質の高いサービスの提供をめざしてきた朝望会としては、ぜひともつくりたかった病院です。

医療激戦区で独自の道を歩む

清水 板橋区とその周辺は周囲に大病院が多く、医療の激戦区と聞きました。その中で医療と福祉への思いを実現されている望月理事長は、優れた経営手腕をお持ちです。

きか真剣に考えました。コンサルティング会社には専門に特化すべく、アドバースを受けましたが、私にはしっくりこなかったのです。

清水 ほう。なぜですか？

望月 私自身が患者さんを見ていてわかるのですが、圧倒的に高齢者が多かったのです。高齢者が罹りやすい病気やケガにきめ細かく対応していくことで地域に住む方たちの助けになることが大事だと考えました。そのため内科、外科、整形外科のほか消化器科、皮膚科、形成外科、泌尿器科など12の診療科を設けています。

望月 デイサービスのご利用者です。年齢と共に筋力が落ちていくため、運動が大切です。トレーニング効果が数値でわかるので、お年寄りでも次はもう少し頑張ろうという意欲につながります。

清水 今後の展望は？

望月 来年には特養を60床増やします。うち20床は都市型ケアハウスです。また、数年後になるでしょうが、手狭になった常盤台外科病院を建て替える予定です。この地域で土地を取得するのは難しいのですが、それをやり遂げるまでが私の仕事と考えています。

清水 地元の方は安心ですね。今日はありがとうございました。



2015年8月1日にオープンしたリハビリテーションエーデルワイス病院

あきらめなければ必ず何とかなる

清水 介護事業を始めたのも自然な流れですか？

望月 そうですね。退院した後に帰る所のない方が埼玉県などの施設に行くのを見て、地元で診てあげたいと思い、療養病棟をつくり、老健や訪問看護・在宅支援センターを開設していきました。

清水 地域包括ケアを地で行く取り組みですね。人材確保も大変でした？

望月 確かに人材の確保や育成は簡単ではないですが、その事業が必要なものであるということ、きちんと言葉が通ることが大事です。明確な目的と意

医療法人財団朝望会
理事長
望月 龍二氏

「地域に根ざした医療と福祉で貢献したい」との思いでスタッフ一同力を合わせています。昔のように地域のコミュニティも復活できたらと、ボランティアを募ったり、スペースを開放して焼きたてパンを売ってもらったりと、いろいろ試んでいます」



王子ネピア株式会社
代表取締役社長
清水 紀晴

「望月先生が歩まれた道は地域貢献となっていますが、貢献したいという明確な意思をお持ちの点が素晴らしい。当社も事業活動を通じて様々な社会貢献を行っておりますが、ネピアメンバーがより一層皆様のお役に立てるようにしていきます」

テnderサポート便り vol.4

介護現場での感染予防対策は？

感染症とは皮膚や粘膜から体内に侵入した病原菌が定着・増殖し、痛みや発熱などの症状がでることです。感染症予防の基本は、①感染源の排除、②感染経路の遮断、③宿主(ヒト)の抵抗力の向上の3点となります。

感染源の排除 病原菌を一切排除することは不可能です。けれど、病原菌を含んでいると思われるものを触るときは必ず手袋を着用し、手袋を外した後は手洗い・手指消毒で病原菌を減らすことは可能です。

感染経路の遮断 感染拡大を防止するには、感染経路を遮断することが重要です。感染経路には、①接触感染(ノロウイルス・腸管出血性大腸菌など)、②飛沫感染(インフルエンザ・風疹など)、③空気感染(結核・麻疹など)などがあります。大切なのは、感染源(病原菌)を持ち込まない・持ち出さない・拡げないことです。そのために重要なのは、「標準予防措置策(スタンダードプリコーション)」の実践です。標準予防措置策とは、「全ての患者の血液・体液・粘膜・創傷皮膚・排泄物などは感染する可能性がある」という考え方を基本とした対策です。高齢者介護施設においても取り入れる必要があ

ります。この観点から、手洗い・手指消毒・うがいの励行・環境の清掃を徹底します。状況に応じて、プラスチックエプロン・ガウンを着用します。

処置の前後は必ず手洗いを行いましょう。手洗いは流水と石鹸が基本です。排泄物による感染は一気に施設や病院内に広がる大きな要因になるので、より気をつける必要があります。ていねいな陰部洗浄、同一患者では不潔部位をケアした後、他の部位をケアする前に手袋を交換します。おむつはビニール袋に密封し、菌の拡散を防がなくてはなりません。

宿主(ヒト)の抵抗力の向上 健康管理は特に留意します。こまめなチェックをすることで些細な変化にも気づけます。大切なのは常日頃の心がけ、早期発見です。

じわっと効く 牧野流 プチヨガ

だるさ、眠気対策に

今回は「首ヨガ②」。目の疲れやだるさ、眠気があるときにおすすめです。

A 45度おじぎ 顔を、正面と真横の間、肩、胸の向きに対して45度(斜め)に傾けます。その方向で頭だけ、こっくりとおじぎをします。さら

に、おじぎをした側の手を頭に軽く乗せておさえます。首筋にじんわり伸びを感じたら、反対側も同じこと、おじぎは正面ではなく45度で行うことです。

B 真横向け 正面を向き、左か右に頭を倒します。倒した側の腕を上げ、脇を伸ばして横から頭を包み込むように乗せます。中指がこめかみにかかるくらいに深く乗せましょう。倒している方向に手の重みがかかります。コツは「目が吊り上がる程度」に。ひと呼吸置いて、反対側も行います。

監修: 牧野修玄 (ヨガ・瞑想・ボディコンディショニング講師)

笑福亭 鶴笑師匠の ボランティア落語会

埼玉県富士見市 ベストライフふじみ野

王子ネピアでは笑福亭鶴笑師匠のボランティア落語会をご支援しています。

6月2日、埼玉県富士見市の介護付有料老人ホーム「ベストライフふじみ野」にて、笑福亭鶴笑師匠のボランティア落語会が開催されました。開演1時間前に施設の職員の方たちと一緒に、王子ネピア東京支店のメンバーが会場を設営。楽しみに待っていた施設の皆さんも徐々に集まり、鶴笑師匠が高座に上がると拍手喝采です。皆さんと目を合わせながら、小唄を一席。会場とコミュニケーションをとりつつ演目を細かく変え、手品あり、南京玉すだれあり、最後はパペット落語で大盛り上がりでした。終演後、「楽しんでもらえましたか?」「お元気でいてください」と声をかける師匠に笑顔で応える皆さん。笑いに満ちた温かいひとときでした。

東京支店に新メンバー2名が加わりました

若手からベテランまで個性豊かなメンバーが集まる東京支店は、総勢12名。フットワークの良い営業と、排泄ケアのプロフェッショナルなカウンセラーとの二人三脚で、関東エリアの施設を全力でサポートさせていただいております。